

科名 血液内科214(4)

対象疾患名 再発又は難治性の多発性骨髄腫

プロトコール名 エルラナタマブ(エルレフィオ) 13サイクル目以降

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1 28
1	皮下注		エルレフィオ	76mg	投与1時間前に前投薬開始	↓

★1ケール=28日

※2週間間隔で24週間以上投与を行った患者が対象

～MEMO～

・CRSに対する前投薬について

エルレフィオの1回目から3回目までの投与(1日目、4日目及び8日目の投与)については、本剤投与開始の約1時間前に、以下の薬剤を投与すること。

-解熱鎮痛剤:アセトアミノフェン1000mg経口投与又は静注投与。

-抗ヒスタミン薬:ポララミン2mg経口投与。

-副腎皮質ホルモン剤:デキサメタゾン20mg(又はこれに相当する用量の)経口投与又は静注投与。

上記以外のエルレフィオ投与時には、医師の判断で投与可能。

・入院管理について

CRS及びICANSは投与初期に多く認められることから、少なくとも以下のタイミングでは入院管理とし、以降の投与についても患者の状態に応じて入院管理を検討すること。

-初回投与(12mg投与)後48時間。

-2回目の投与(32mg投与)後24時間。

・CRS及びTLSを予防するため、以下の項目を考慮

-本剤投与前24時間に2-3Lの水分を摂取する。

-本剤投与前24時間に降圧薬の服用を中断する。

-本剤投与日は、投与前に等張輸液500mLの投与を受ける。かつ

-本剤投与後24時間に2-3Lの水分を摂取する。

・CRS、ICANSに対して

トリリズマブ(アクテムラ[®])、デキサメタゾン(デキサート[®])、レベチラセタム(イーケプラ[®])準備。

・注射部位は腹部が推奨されています。腹部に注射できない場合は大腿部を選択することも可能。

上肢(三角筋、上腕、前腕等)への皮下注射は避けて下さい。

・本剤投与延期後に投与を再開する場合の投与スケジュール

休薬直前の用量	休薬期間	再開時の用量
12mg	2週間(14日)以内の休薬	4日目の投与量(32mg)で投与
	2週間(14日)を超える休薬	1日目の投与量(12mg)で投与
32mg	2週間(14日)以内の休薬	8日目も投与量(76mg)で投与
	2週間を超える、4週間以内(15日-28日まで)の休薬	32mgで投与。忍容性が認められた場合は1週間後に76mgで投与
	4週間(28日)を超える休薬	1日目の投与量(12mg)で投与
76mg	6週間(42日)以内の休薬	76mgで投与
	6週間を超える、12週間以内(43日-84日まで)の休薬	32mgで投与。忍容性が認められた場合は1週間後に75mgを投与
	12週間(84日)を超える休薬	1日目の投与量(12mg)で投与